

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、デイサービス、有料老人ホーム、支援ハウス、高齢者専用賃貸、保育園等の施設があり、また、少し離れてはいるが、特別養護老人ホーム、学童保育などの施設もある。以前は、施設間での交流を行っていたが、コロナウイルス感染症対策のため交流を中止している。保育園の運動場が、園から見える位置にあり、保育園児が、遊んだり、運動会の練習風景を見ることができ入所者の皆様方喜んでいらしゃいます。毎日入浴の時間を設けているので、ゆっくりと、入浴を楽しんでいらしゃいます。職員一同、皆様が明るく、元気に楽しく、その人らしく、暮らせるように、支援させて頂いています。

ホームは有明海を望める高台に位置し、隣接して有料老人ホーム、支援ハウス、高齢者専用賃貸住宅、通所介護、保育所があり、これら関連事業所と連携した支援に取り組んでいる。ホームの前を通る保育園児の姿を入居者が眺める様子が窺え、入居者の喜びのひとつとなっている。ホームの都合で入浴日を決めることなく、毎日入浴ができるよう体制を整えており、全入居者が毎日入浴することで清潔を保ち新陳代謝を促し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。コロナ禍により、地域に出向いたり交流することを自粛しているが、ホーム内でも楽しめるよう工夫している。職員は入居者のペースを大切に考え、その方のペースに合わせた言葉かけ関わりを持ち、笑顔を忘れずに日々のケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす。 という理念を掲げていますが、コロナウイルス感染症の為、地域との交流が、出来ていない。	ホームの理念「1.生き生きと過ごせる場・2.気持ちよく過ごせること・3.喜んでいただけること・4.家族も喜んでくださること・5.誠心誠意前向きに・6.わがままが自然に言える雰囲気づくり」を事務所に掲げ職員の行動指針と共に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の為、ここ数年、外部との交流は、出来てない。 リモートによる会議や、研修に参加している。	コロナ禍以前は国見町の文化祭に入居者の作品を展示したり見学に行くこともあった。コロナ禍後は地域交流ができていないが、管理者は今後のコロナやインフルエンザ等の感染状況に配慮しながら徐々に地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事等は、全く参加できてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束、利用者の状況報告、自己評価、外部評価の結果報告、研修報告や、利用者家族様の要望等聴いたりしている。	運営推進会議は家族代表も交えて開催し、ホームの状況を報告し、意見や助言を得ている。感染状況に応じて対面または書面会議にて実施している。民生委員から独居の方の様子や家族から地域の情報などを得ている。入居者家族は交代で運営推進会議に参加し、いただいた意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を活用して身体拘束適正化委員会を開催しているが、身体拘束適正化委員会の実施状況が把握しづらい開催月が窺えたので、同会議にホームの身体拘束に関する取り組み状況を諮り、例えば「〇月期は身体拘束実施状況はゼロ」と報告し記載するなど同委員会の議事内容が分かるよう工夫することが望ましい。また、避難訓練の実施状況に関しても報告し議事録に残しておくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査員の方や、運営推進会議の担当者様には、伝えている。	島原地域広域市町村圏組合の担当者とは法人事務局の担当職員を中心に各種手続きなどで関わり持っている。相談事が生じた場合は適宜情報交換を行っている。市町村担当者が運営推進会議に参加し、率直な意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、島原半島のグループホーム協会の研修に参加している。(リモートによる) 運営推進会議でも、報告している。	グループホーム連絡協議会が主催する身体拘束・虐待防止に関する研修(リモート)に参加し、参加した職員は研修の感想を文書にして記録として残している。また、研修に参加していない職員には資料を閲覧しながら伝達研修の機会を設け、身体拘束の具体的な行為を周知している。現在、身体拘束を実施している入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、グループホーム協会の研修に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方はいらしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方には、契約時に説明している。要望等も、その時に尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんど回答がない。	運営推進会議に家族が交代で参加しており、意見を聴いている。入居者の面会に家族が来訪した際に入居者の日々様子を伝え、会話を交わし意見を伺うようにしている。これまで家族等から苦情が挙がったことはない。尚、意見箱を玄関に設置しており、家族等が意見を出せるように整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が出来る時は、行事や利用者の情報交換等行っている。	職員会議や申し送り時に職員の意見や意向を聞いている。また、ホームにLINEグループを設けて全職員に向け必要事項を共有している。職員意見を踏まえ、テーブルイスの配置や居室の動線などを検討し反映している。有給休暇は取得できており、個人的な勤務調整にも配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分達の思いどおりに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、役員会等(リモート)参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の施設利用者がほとんどだが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も、増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、コロナウイルス感染症の為、電話のみであったが、現在は、事前に連絡していただいた方については、施設内の見学を受け入れている。居宅介護支援事業所の介護支援専門員の方とは、密に連絡を取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所からの相談がほとんどで、個人的に相談に来られる方は、いらしやらない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌をうたったり、レクリエーションをしたりしながら、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室については、家族にお願いしているが、コロナウイルス感染症の為、面会を制限し、居室の立ち入りを禁止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望はほとんど無い。あっても、家族もよくわからない方の名前が出たり、亡くなった方だったりすることがある。現在、コロナウイルス感染症の為、面会を制限している。	居宅介護事業所から入居者の情報を得、また、入居者や家族とコミュニケーションを図りながら馴染みの人や場所を把握している。本人の趣味や得意なことを把握し、編み物道具や雑巾づくりなどを取り組んだ。家族と協力して馴染みの美容室に行くこともある。今後、地域の感染状況に応じて友人や知人との面会制限を緩和する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声掛けしている。場合によっては、職員が、間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の面会を制限され、家族優先なので、家族より報告を受けるようにしている。同じ法人内の特別養護老人ホームへの入所になった方もいらしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても、理解出来ない方もいらしゃる。出来るだけ、表情や行動で理解、把握するようにしている。	重度の難聴の方にもまずは声掛けし、必要に応じて筆談しながら「お風呂」、「おやつ」など分かりやすく記載して本人が選択できるよう取り組んでいる。入居者本人及び家族より生活習慣やホームでの暮らし方の意向を確認し、確認した情報をもとに、職員が入居者と会話しながら意向や思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、話せる方は、本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、その日の体調や、心身の状態を見て、過ごし方を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を作成し、職員で話し合っている。	管理者兼計画作成担当者が中心となり、把握した入居者情報をもとに職員へ意見を求め、毎月の会議の際に全職員で介護計画の内容を検討し共有している。遠方の家族には電話連絡して意向を伺い、計画に反映している。全職員が入居者の目標等を把握し支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしている。個人差が激しい。記録の書き方の研修に参加している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力により、自由に外出して頂いている。コロナウイルス感染症の為、制限しているところもある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自で、愛野記念病院との関係もち、月に一度訪問診療を全員が受けている。急変時や、夜間の受け入れもスムーズに対応して頂いている。	ホームは地域の中核病院(愛野記念病院)を協力医とし、毎月1回、協力医が訪問診療を行っている。入居後もこれまでのかかりつけ医を継続することが可能であるが、ホームの協力医へ変更するケースが多い。受診する際には、職員が病院受診用に整理したファイルを持参しかかりつけ医へ入居者の状態を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っているため、情報交換も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早く退院出来る様に相談したり、地域連携室と連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、見取りに関するアンケートを実施しているが、職員としての看護師の配置がない為、現在、出来ない。	ホームでの看取り支援は行わないことを原則とし、入居時に看取りに関する意思確認書を用いて家族へ説明している。隣接する通所介護事業所の看護師が緊急時や喀痰吸引が必要な際に対応できるよう連携している。看取り期に至った場合は特別養護老人ホームまたは入院施設へ移ることとなることを基本としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成している。職員全員が普通救命講習を受講する様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練や、災害時の対応について話し合いを行なっている。	前年は5月、6月、10月、今年は2月、8月に避難訓練を実施している。有事の際は、隣接して同法人の関連施設の協力体制がある。消防計画、自然災害対策編を策定し、ハザードマップを事務所に掲示している。職員へ有事の際の対応や役割分担を周知している。食品等は3日以上を備蓄している。	備蓄品リストを作成しているが、賞味消費期限を明記して管理することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになっているところや、厳しい声掛けになっている時がある。	排泄や入浴の場面などはカーテン等で目隠しをして個別支援を行うなど入居者の羞恥心に配慮した支援に努めている。リスク箇所の気づきや転倒した場合などヒヤリハットや事故報告書にて職員間で共有している。管理者は職員の言葉遣いが気になる場面があることを認識している。	言葉かけが馴れ合いになってしまう場合や声のトーンが気になる場面があることを踏まえ、例えば、接遇マナーチェックリストを用いて接遇マナー「挨拶・言葉遣い・表情・傾聴・身だしなみ」の5原則を定期的に確認したり、年間研修計画に接遇研修を組み込むなど計画的に取り組み、より入居者の尊厳に配慮した今後の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面も作っているが、決めることが出来ない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望通りに行うことは出来ないが、出来る限り対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれた物がほとんどだが、家族が遠方の方など、施設で対応している。カットや、毛染めなどで、家族が美容室に連れて行かれる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲で色々お手伝って頂いている。	職員は入居者と同じ食事を同じ食卓で摂っている。朝食を午前9時半から摂る方もおり、入居者のペースに合わせて柔軟に対応している。食事形態はトロミ食やミキサー食で入居者が飲み込みやすいよう配慮している。誕生日などの行事の際には茶碗蒸しや刺身、煮物、煮豆、赤飯など入居者が好むメニューにて提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とは言えないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持ち込まれた物は、利用者全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、誘導している。出来ない方については、職員が、介助している。また、義歯の方は、夕食後洗浄液につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、記録をするようにしている。尿意便意のない方については、時間を見て誘導するようにしている。また、出来るだけ、布パンツにパットで過ごして頂いている。	布パンツとパッドを使用することを基本とし、居室のポータブルトイレや共用トイレに誘導して排泄の自立に向けて取り組んでいる。夜間は夜用のパッドにて大きさを調整し使用している。入居者毎に排泄チェック表を用いてその方の排泄パターンを把握し、職員がパターンに応じた排泄誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行なっているが、ほとんどの方が下剤服用されている。様子を見て、医師と相談し調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入浴出来る様にしている。声掛けを時間を置き何度か行い、拒否された方は、翌日声掛けするようにしている。	ホームの都合で入浴日を決めることはなく、毎日入浴ができるよう体制を整えており、全入居者が毎日入浴することで清潔を保ち新陳代謝を促し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否する方には、タイミングや対応する職員を変更し、再度声掛けを行い、無理強いしない対応に努めている。リフト浴を整備し重度者にも対応している。ゆず湯なども行っており、入浴を通して季節を感じられるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、行事等出来るだけ、工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、戸外に出かける様にしている。最近は、ドライブを兼ねて出かけてます。	ホームの敷地が広く、天候が良い時には日光浴ができる環境である。コロナ禍により外出することを自粛しているが、近隣の有明フラワー公園に向き、車窓から眺めるなど管理者が感染状況を勘案して判断している。散歩がてら近隣にある自動販売機でジュースを購入するなど可能な範囲で外出を支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。ほとんど使うことはないが、自販機でジュース類を買って飲まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族からかかってくるが、手紙のやり取りを行なっている方は、いらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、有明海が見渡せ、すぐ下にはグランドがあり、園児の遊ぶ姿が見れたり、周りにある花木で季節を感じることができる。	食堂の壁面には七夕の短冊やクリスマスなど季節の飾りつけに可能な範囲で入居者も関わる場面を設けている。共用空間は季節に応じてエアコンの温度調節を行い、随時の換気と清掃を実施して清潔保持に努めている。ホームの前を通る保育園児の姿を入居者が眺める様子が窺え、入居者の喜びのひとつとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを色んな所に置き、それぞれに応じて、好きなところに座って頂けるようにしている。また、居室で過ごされる方もいらしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては、家族にお願いしている。持ち込みはいろいろです。	居室は早出の出勤者が掃除機かけと拭きそうじを行っている。家族へ入居者の馴染みの物を持ち込むことができる旨を説明し、家族の写真や遺影を持ち込んだり、衣装ケースやハンガーのほか宗教上のものを持ち込むこともできる。使い慣れた物を持ち込んでもらい使用する事で、入居者にとって安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて配置や、補助具等を利用している。		